

長崎県 松浦圏域 総合水産基盤整備事業計画

1. 圏域の概要

(1) 水産業の概要

① 圏域内に位置する市町村および漁業協同組合の概要

当該圏域は、長崎県北部に位置し、平成 18 年 1 月に松浦市、福島町、鷹島町が合併し松浦市となった。圏域内の調川港には、高度衛生化閉鎖型施設となった松浦魚市場が所在するほか、西日本一帯を管轄する業種組合である日本遠洋旋網漁協の事業本部や各工場があり、大中型まき網漁業の一大水揚基地となっているなど、水産業が基幹産業となっている。漁業協同組合は、平成 17 年 12 月に4漁協(鷹島阿翁・新星鹿・松浦・福島町)が広域合併して「新松浦漁業協同組合」が発足している。

② 主要漁業種類、主要魚種の生産量、資源量の状況

当該圏域では、船びき網やごち網などの漁船漁業やマダイ、ブリ、クロマグロ、トラフグ等の養殖業が営まれ、主要な魚種は、いわし類(9,770 トン)、ぶり (5,449 トン)、あじ類(17,182 トン)、さば類(25,232 トン)である。その中でも、あじ、さば、養殖トラフグは、全国有数の生産量を誇っている。また、域内の松浦魚市場は、大中型まき網を主体として、まき網漁業や沿岸漁業の水揚げ基地となっている。資源管理の状況として、マダイ、ヒラメ等の種苗放流や食害動物駆除などの磯焼対策、赤潮対策の強化を図っている。

③ 水産物の流通・加工の状況

松浦魚市場には、大中型まき網等まき網漁船によるアジ、サバ等の多獲性魚種が多く水揚げされており、市場の周辺には加工団地が立地し、生産から流通、加工にいたる水産基地を形成している。その他にも、域内の漁船漁業や養殖による水産物は、地元での消費のほか、佐世保魚市場や唐津、福岡などへ出荷されている。代表的な加工品としては、長崎県認定基準合格品「長崎俵物」に選出されている、「旬あじ一夜干し」、「旬しめさば」がある。その他、「とらふぐ加工品」、「福島活きくるまえび」、「青島かまぼこ」、「いりこ(ちりめん)」なども代表的な加工品である。また、アジの水揚げ日本一を誇っていることから「アジフライの聖地」を宣言し、松浦で水揚げされたアジを活用した地域活性を図っている。

輸出に関する取り組みとして、産地市場を有する調川港から中国、ベトナム、タイへ輸出

を行っている。なお、EU をはじめとした高度な衛生基準が求められる諸外国への輸出にも対応できるように、高度衛生化閉鎖型施設の整備を行ったところである。

④ 養殖業の状況

松浦地域ではブリやマダイ、トラフグの養殖が行われており、県内外に出荷されている。また、鷹島地域ではクロマグロやトラフグの養殖が行われており、同じく県内外に出荷されている。

⑤ 漁業経営体、漁業就業者(組合員等)の状況

令和元年の港勢調査のデータでは、漁業経営体が 215 体、漁業従事者数 545 人であり、双方ともに近年減少している。なお、組合員の高齢化が進んでおり、今後も減少が続く見込みであるため、後継者の確保が課題となっている。

⑥ 水産業の発展のための取組

漁協女性部を中心に、都市部の修学旅行生等を対象に民泊受入れや魚料理体験を通じ、漁村地域への理解促進、魚食文化の発信を行っている。

また、松浦魚市場では、年に1度、魚市場を開放し、魚食普及や水産物の消費拡大を目的として、「おさかなまつり」を開催している。

⑦ 水産基盤整備に関する課題

水産基盤整備に関しては、高齢化が進む漁業者や女性が安心して働くことのできる環境を整え、今後の漁業生産力を維持していくことや、漁港施設は全体的に老朽化が進行しているため、現状を調査して予防保全的な対策を施すことで施設の長寿命化を図り、将来の維持補修や更新にかかるコストを縮減していくことが課題となっている。また、水産資源の増殖に向け、資源管理や栽培漁業等と連携した漁場の整備を進める必要がある。

⑧ 将来的な漁港機能の集約化

漁港機能の集約化について、現時点で想定していない。

(2) 圏域設定の考え方

① 圏域タイプ	流通拠点型	設定理由;松浦圏域の漁港全体の約30%の水産物(約1,400t)を集約し、消費地や加工場へ出荷する。
② 圏域範囲	第1種漁港:10 第2種漁港:2 第3種漁港:0 第4種漁港:0	設定理由;流通拠点港への水産物の集約が及ぶ範囲

	特定第3種漁港：0	
③ 流通拠点漁港	阿翁浦漁港	<p>設定理由;産地市場を有していないが、属地陸揚金額 10 億円以上があり、圏域内の漁港の約 3 割の水産物が陸揚げされている。平成 22 年度には養殖マグロの中国への初出荷を行ったところであり、更なる発展が見込まれる。また、トラフグの養殖も盛んであるが、近年は減少傾向にある。流通拠点漁港として、地震・津波発生時の漁港利用者の避難対策を検討しておくため、BCP を令和 2 年度に策定した。今後、BCP 訓練等を通してブラッシュアップを図っていく必要がある。なお、主要陸揚げ岸壁の耐震強化を検討しており、将来的には、高度衛生管理(L2 以上)の導入も目指す。</p>
④ 生産拠点漁港	星鹿漁港	<p>設定理由;当該漁港は、養殖業、あぐり網、刺し網が主な漁業であり、登録漁船 50 隻以上、属地陸揚金額 1 億円を有している。特に養殖業は圏域内での漁獲量の約 5 割を占め、圏域の水産物供給に大きく貢献しており、ブリ類、マグロ等さまざまな養殖が行われ、養殖の基地となっている。</p> <p>今後、防波堤、防風フェンスの設置等、荒天時に漁船の安全性を確保するとともに、養殖関連作業や給油作業の作業効率を向上させるため、浮棧橋の整備を行う。</p>
⑤ 輸出拠点漁港	—	設定理由;—

⑥養殖生産拠点地域	鷹島地域 松浦地域	<p>設定理由；</p> <p>鷹島地域については、養殖クロマグロ・トラフグの生産・流通を一体的に行っている地域であり、海面養殖業算出額がクロマグロ7億円、トラフグ5億円に上る地域である。</p> <p>松浦地域については、ブリ・マダイ・トラフグの生産・流通を一体的に行っている地域であり、海面養殖業算出額がブリ17億円、マダイ3億円トラフグ5億円に上る地域である。</p>
-----------	--------------	---

(令和元年)

圏域の属地陸揚量(トン)	64,507	圏域の登録漁船隻数(隻)	686
圏域の総漁港数	12	圏域内での輸出取扱量(トン)	16,853
圏域で水産物の水揚実績がある港湾数	7		

当該圏域を含む養殖生産拠点地域名	鷹島地域
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における主要対象魚種	クロマグロ、トラフグ
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別生産量(収穫量)(トン)	クロマグロ:911 トラフグ :549
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別海面養殖業産出額(百万円)	クロマグロ:698 トラフグ :549
当該圏域を含む養殖生産拠点地域名	松浦地域
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における主要対象魚種	ブリ類、マダイ、トラフグ
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別生産量(収穫量)(トン)	ブリ類 :1893 マダイ :318 トラフグ:223
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別海面養殖業産出額(百万円)	ブリ類 :1667 マダイ :276 トラフグ:459

2. 圏域における水産基盤整備の基本方針

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

① 拠点漁港等の生産・流通機能の強化

水産業の成長産業化に向け、産地における水産物の価格形成力の向上と生産・流通コストの削減を図るための更なる拠点の機能強化が急務であり、港内の静穏度向上や、陸揚機能の強化等の対策を講じる必要がある。

② 養殖生産拠点の形成

「養殖業成長産業化総合戦略」に基づき、マーケット・イン型の養殖業への転換を図り、生産目標や輸出目標の達成に向けた主要産地の生産から流通に至る基盤の強化等が急務であり、養殖関連作業の効率化や高度衛生管理の導入を目指す必要がある。水産基盤の整備については、浮棧橋を整備することにより、潮位差に対応し、安全かつ効率的に作業ができるように取り組む予定である。

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

① 環境変化に適応した漁場生産力の強化

当該圏域を含む長崎北地区の漁業生産量については、近年減少傾向にあり、また、令和3年度に県下全域で実施した藻場分布調査では、海水温の上昇が原因と思われる藻場面積の減少が確認され、今後の資源の悪化が懸念されている。そのため、水産資源の回復・増大を図るため、漁業者等が自主的に行う資源管理等の取り組みと連携しながら、沿岸から沖合いまで水産生物の成長に合わせた漁場づくりや環境の改善を実施、併せて増殖場の整備効果を確認するため、潜水調査やサンプリングによる餌料生物や魚類、藻類等の生育状況を継続的にモニタリングし、必要に応じ、植食性生物の駆除や藻類種苗の追加等の対策を講じる。

② 災害リスクへの対応力強化

南海トラフ地震などの大規模地震・津波の発生が切迫し、また台風・低気圧災害の頻発化・激甚化による漁港関係施設被害が増大傾向となる中で、漁場から陸揚げ、加工・流通に至る水産業として一体的に機能する地域の安全・安心の確保と被災後の地域水産業の早期再開を可能にする事前の対策が急務であり、既設漁港施設の機能強化や主要陸揚岸壁の耐震強化を図る必要がある。老朽化が進み、更新需要が増大する漁港施設・漁業集落排水施設については、予防保全対策（機能保全対策）を施すことで施設の長寿命化を進める必要がある。

(3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

① 「海業」による漁村の活性化

漁村の人口減少や高齢化、漁業所得の減少など地域の活力が低下する中で、地域資源と既存の漁港施設を最大限に活用した「海業」等の振興を一層推進することで、地域の所得と雇用機会の確保を図ることが急務である。新たなイベントの実施等により交流人口の拡大や人材の確保・育成をしていくことや、必要性があれば漁港施設の再編・整理、漁港用地の整序等による漁港の活用促進を図っていく必要がある。

②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

漁港・漁村における生産活動は、女性や若者から高齢者までの幅広い世代、外国人技能実習生など多様な人材によって支えられており、安全で働きやすい環境と快適な生活環境の整備は、担い手確保にあたり重要な課題である。陸揚作業等が行いやすい環境整備を推進していく必要がある。

3. 目標達成のための具体的な施策

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

① 拠点漁港等の生産・流通機能の強化

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
阿翁浦	流通機能強化	水産流通	阿翁浦	2種	○
星鹿	流通機能強化	水産生産	星鹿	2種	

防波堤の改良や防風柵の設置等で港内の静穏度を向上させることで、生産・流通コストの縮減を図る。また、大規模災害が発生しても早期に漁業活動が再開できるように、主要岸壁の耐震強化を図る。

② 養殖生産拠点の形成

地区名	主要対策	事業名	漁港・漁場名	種別	流通拠点
阿翁浦	養殖拠点	水産流通	阿翁浦	2種	○
星鹿	養殖拠点	水産生産	星鹿	2種	

養殖関連作業の効率化を図るため、浮棧橋の整備を行う。

防波堤の改良等により、静穏度を向上させることで養殖関連作業の効率化を図る。

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

① 環境変化に適応した漁場生産力の強化

地区名	主要対策	事業名
長崎北	環境変化 資源管理 藻場・干潟	水産環境整備事業

水産資源の維持・回復を図るため、種苗放流や禁漁区の設定など資源管理の取り組みと連携しながら、沿岸域に幼稚仔魚の餌場や隠れ場、成育の場となる増殖場を整備し、その沖合には効率的な漁獲が可能となるよう魚礁漁場を整備することにより、魚の成長に合わせた漁場づくりを行う。

② 災害リスクへの対応力強化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
阿翁浦	安心・安全	水産流通基盤整備事業	阿翁浦	2種	○
星鹿	安心・安全	水産生産基盤整備事業	星鹿	2種	
阿翁浦	予防保全	水産物供給基盤機能保全事業	阿翁浦	2種	
星鹿	予防保全	水産物供給基盤機能保全事業	星鹿	2種	
青島	予防保全	水産物供給基盤機能保全事業	青島	1種	
阿翁浦	予防保全	漁港漁村環境整備事業	阿翁浦	2種	
阿翁浦	予防保全	漁港漁村環境整備事業	阿翁浦 (日比)	2種	
殿ノ浦	予防保全	漁港漁村環境整備事業	殿ノ浦	1種	
船唐津	予防保全	漁港漁村環境整備事業	船唐津	1種	
鍋串	予防保全	漁港漁村環境整備事業	鍋串	1種	

異常気象や台風の大型化に伴い、全国的に波高が増大している中、主要防波堤において現行の波高に耐えうる構造へ改良する。

機能保全計画に基づき、適宜予防保全工事を行い、施設の延命化を図る。

(3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

① 「海業」による漁村の活性化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点

② 地域の水産業を支える多様な人材の活躍

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
阿翁浦	養殖拠点	水産流通基盤整備事業	阿翁浦	2種	○
星鹿	養殖拠点	水産生産基盤整備事業	星鹿	2種	

青島	就労環境	港整備交付金事業	青島	1種	
----	------	----------	----	----	--

高齢化が進んでいる松浦圏域において、高齢者や女性も働きやすい環境を整備するため、浮体式係船岸の整備や防風施設等の越波防止に関する整備を行う。

4. 環境への配慮事項

藻場は、多種多様な生物の産卵の場や幼稚魚の成育の場、海水の浄化など多様な機能を有しているが、近年「磯焼け」の拡大による藻場の消失が進行している。

このため、漁業資源の回復には藻場回復を計画的、効果的に進める必要があるとの地域の漁業関係者が共通認識の下、10年後の回復目標を定めた「長崎県藻場回復ビジョン」（平成28年7月）に基づき、関係者が一体となってソフト事業、ハード事業の両面から総合的な藻場回復に取り組んでゆく。

ソフト事業の面では、漁業協同組合を中心に「藻場見守り隊」を設置し、回復目標に向けた長期及び各年度の活動計画を定めた「地域藻場回復計画」を策定して地域別、藻場の状況別に対応策を講じることとし、ハード事業の面では、藻場見守り隊の活動に呼応して、藻場繁茂の基質と核藻場礁を整備する増殖場の整備事業を実施し、さらに磯焼け対策緊急整備事業等を活用して早期の藻場機能の発現を促し、藻場の拡大と早急な資源回復を図るとともに、漁港施設においても環境配慮型ブロックの設置等を推進して、漁場環境の改善を進める。

5. 水産物流通圏域図

長崎県 水産物流通圏域図 (平戸圏域、松浦圏域)

松浦圏域 流通拠点型

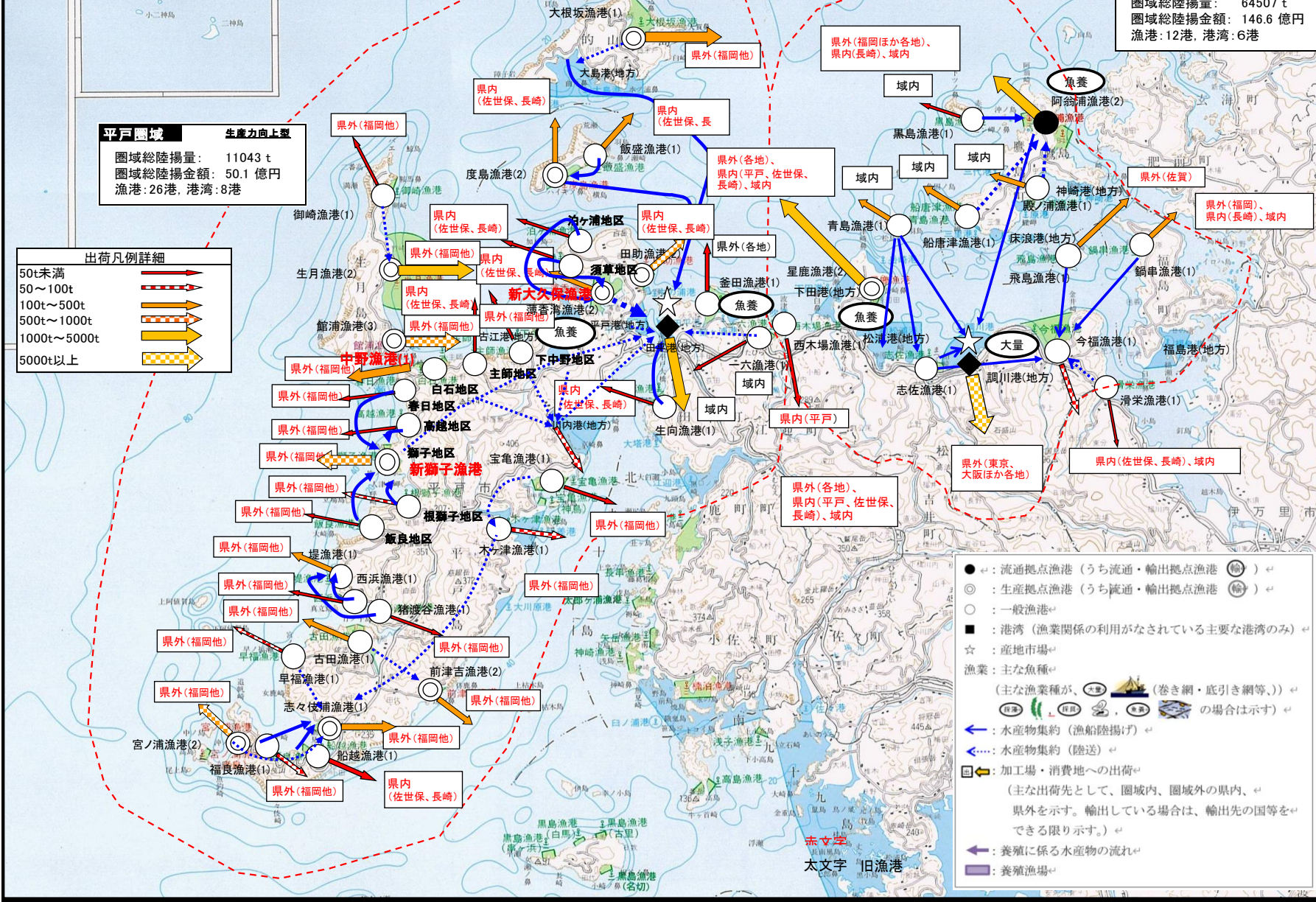
圏域総陸揚量: 64507 t
 圏域総陸揚金額: 146.6 億円
 漁港: 12港、港湾: 6港

平戸圏域 生産力向上型

圏域総陸揚量: 11043 t
 圏域総陸揚金額: 50.1 億円
 漁港: 26港、港湾: 8港

出荷凡例詳細

50t未満 →
 50~100t →
 100t~500t →
 500t~1000t →
 1000t~5000t →
 5000t以上 →



●: 流通拠点漁港 (うち流通・輸出拠点漁港) ◉
 ◎: 生産拠点漁港 (うち流通・輸出拠点漁港) ◉
 ○: 一般漁港
 ☆: 港湾(漁業関係の利用がなされている主要な港湾のみ)
 ■: 産地市場
 漁業: 主な魚種
 (主な漁業種が、(巻網・底引き網等)の場合には示す)
 ←: 水産物集約(漁船陸揚げ)
 ←: 水産物集約(陸送)
 →: 加工場・消費地への出荷
 (主な出荷先として、圏域内、圏域外の県内、
 県外を示す。輸出している場合は、輸出先の国等を示
 できる限り示す。)
 ←: 養殖に係る水産物の流れ
 ■: 養殖漁場